

HOW TO USE A BADGE MACHINE



作り方動画はこちら!

バッジマシンの操作方法

Kカッター・操作手順	1
バッジマシーン各部の名称	2
バッジマシーン・操作手順	3~6
アタッチメントの取り外し方	7
アタッチメントの取り付け方	8
故障かな?と思ったら(うまくプレスできない)・バッジ制作に失敗した時は	9
メンテナンス方法・よくあるご質問	10
原稿制作・印刷時の注意点	11



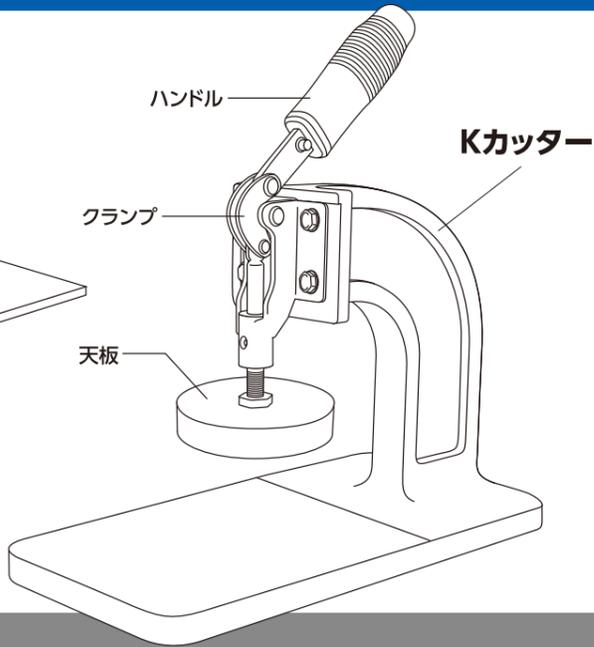
Kカッター

Kカッターブレード

※Kカッターブレードは種類によって形状が異なります。

Kカッター用 カッティングマット

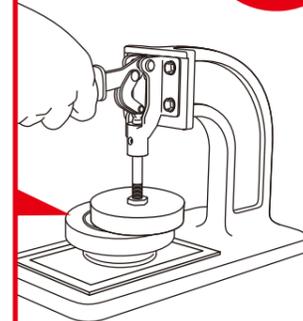
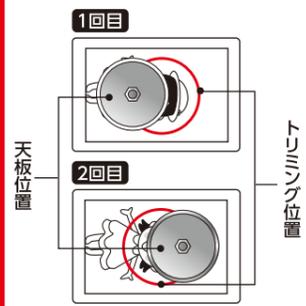
! Kカッターブレードは刃物ですので、取り扱いには注意してください。



φ65mm・φ75mmの場合

注意

下図のように、天板の位置をずらし、2回に分けてプレスするとキレイにカットできます。



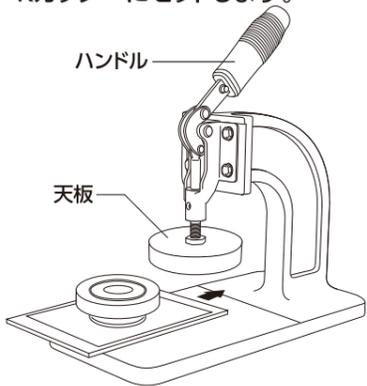
操作手順 (原稿をカットします。)

1 Kカッター用カッティングマットの上で、Kカッターブレードを使い、原稿のトリミングを決めます。



Kカッターブレードの刃部と背部を間違わないようにセットしてください。

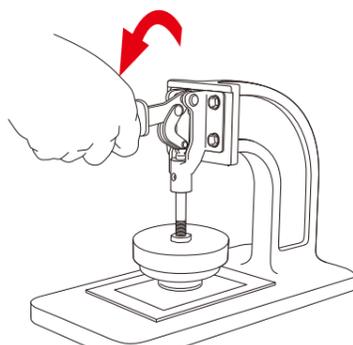
2 Kカッター用カッティングマットをKカッターにセットします。



※Kカッターブレードの中心を天板の中心でプレスできる位置にセットしてください。

3 ハンドルを倒してプレスします。

φ65mm・φ75mmの場合は上図をご参考にプレスして下さい。



※あまり強く力を入れすぎないように注意してください。強く力を入れすぎると、KカッターブレードがKカッター用カッティングマットに食い込み、取れにくくなる場合があります。

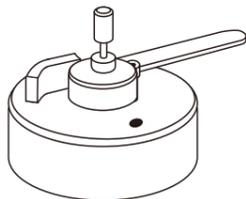
4 ハンドルを上げ、原稿を取り出すとカットされています。



バッジマシン各部の名称

アタッチメント

プレス用
上アタッチメント



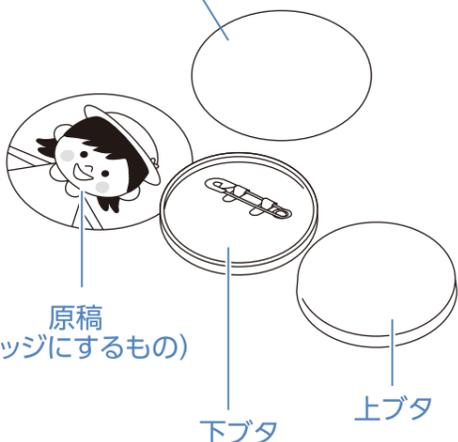
下ボタン用左側
アタッチメント
(凹みが深い)



上ボタン用右側
アタッチメント
(凹みが浅い)



透明フィルム

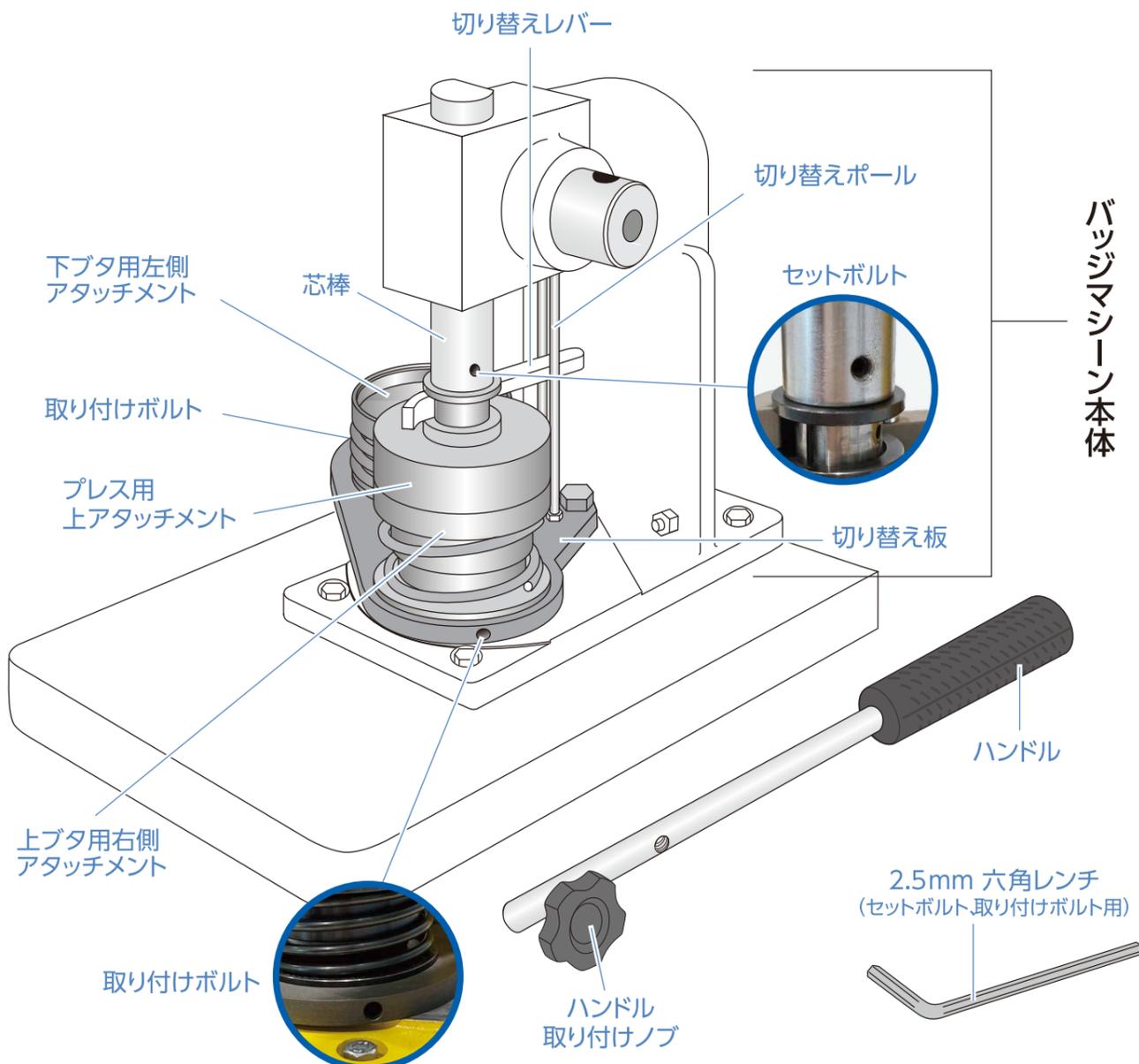


原稿
(バッジにするもの)

下ボタン

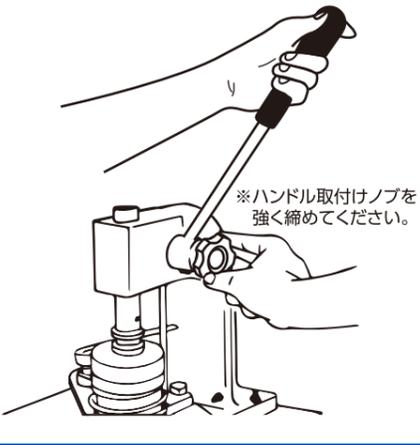
上ボタン

※φ25mmに限り安全ピンは後付けです。

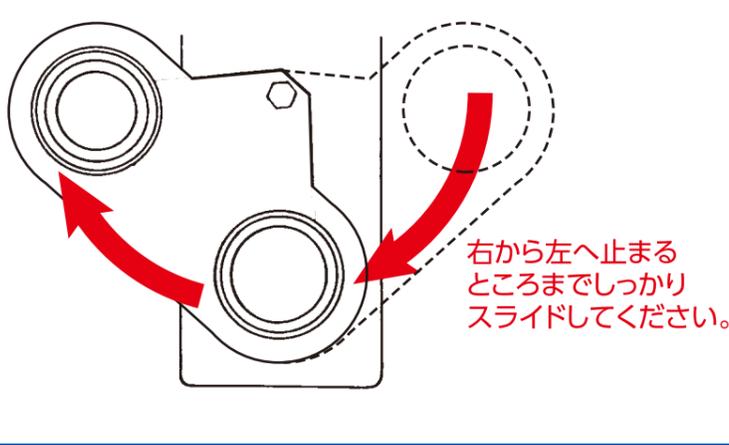


バッジマシン・操作手順

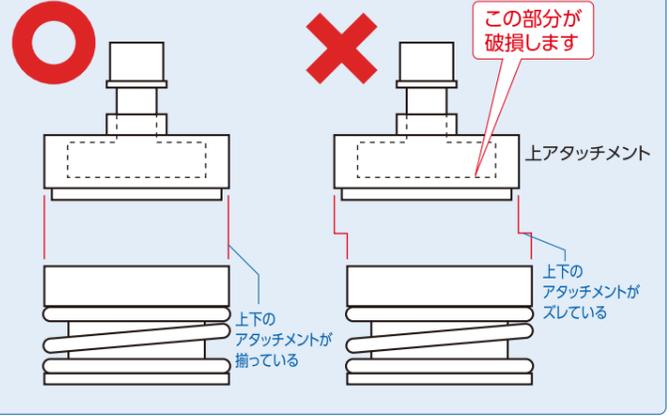
1 ハンドルを取り付けます。



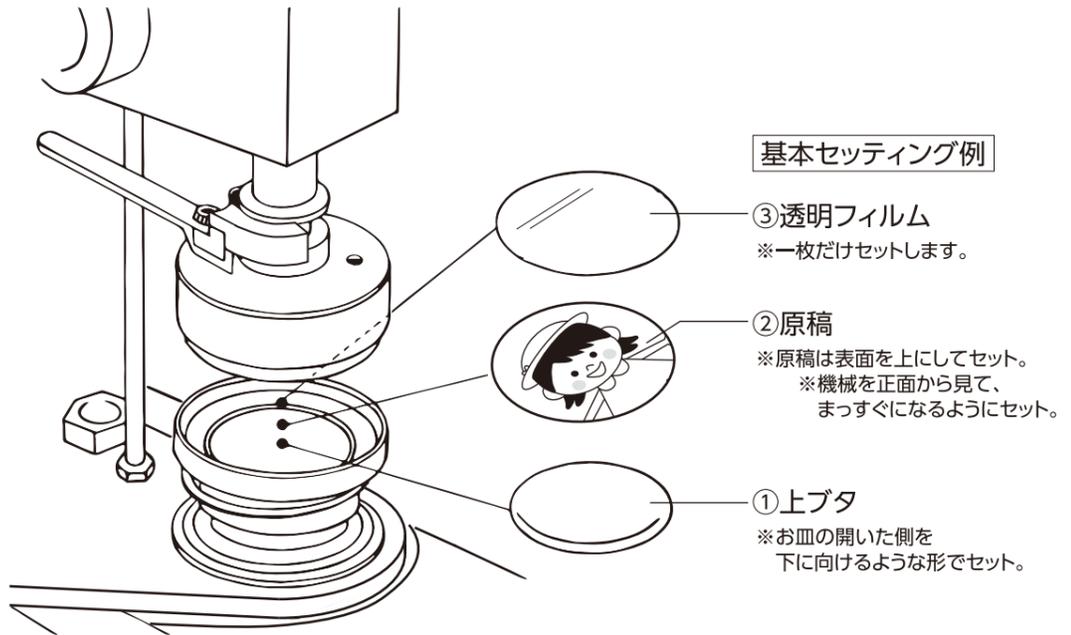
2 上ボタン用右側アタッチメントがプレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。



ズレたままプレスすると、故障の原因となります。



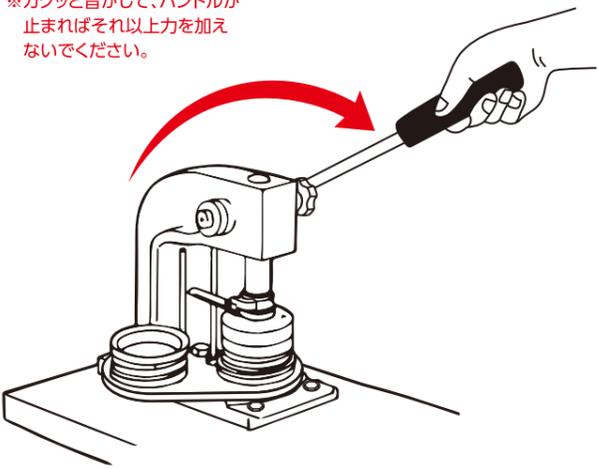
3 アタッチメントに、上ボタン、原稿、透明フィルムの順に乗せます。
※この時、アタッチメントの枠からずれないようにセットしてください。



バッジマシン・操作手順

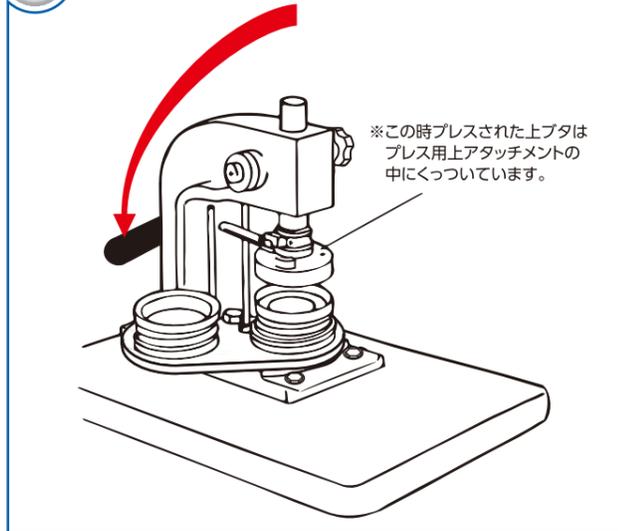
4 ハンドルを押し下げ、プレスします。

※ガクッと音がして、ハンドルが止まればそれ以上力を加えないでください。

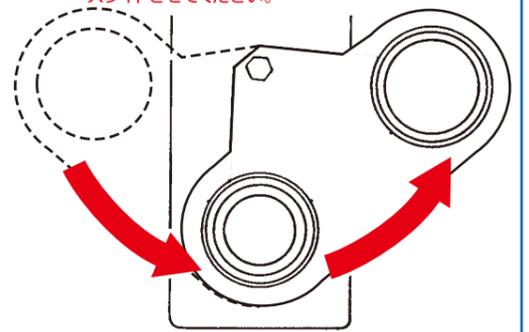


5 ハンドルを戻します。

※この時プレスされた上ボタンはプレス用上アタッチメントの中にくっついていきます。



6 下ボタン用左側アタッチメントが、プレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。
※アタッチメントは左から右へ止まるまでスライドさせてください。



しっかりスライドさせないと、故障の原因となります。 前ページ 2 参照

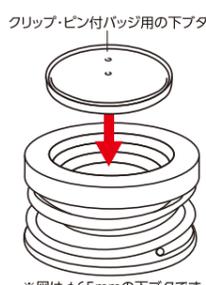
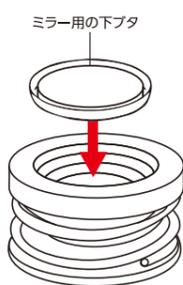
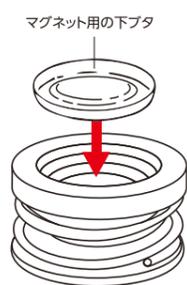
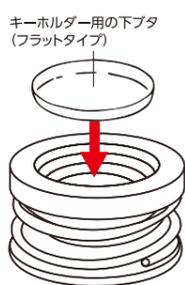
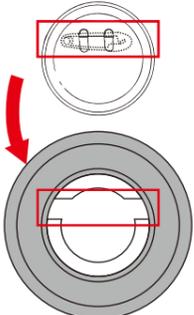
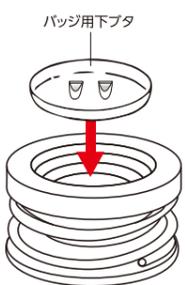
7 下ボタンを下ボタン用左側アタッチメントにセットします。

■バッジ、連結バッジの場合

φ31mmのみ

■キーホルダー、マグネット、ミラー等の場合

■クリップ・ピン付の場合



図のように、機械を正面から見て安全ピンの取り付け穴がまっすぐなるようにセットします。

溝に安全ピンが収まるようにセットします。

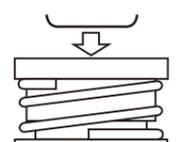
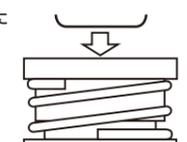
※上下の向きは右図のようにセットします。

図のように、機械を正面から見て、窪みが一直線に並ぶようにセットします。

※上下の向きは右図のようにセットします。

※上下の向きは右図のようにセットします。
※φ40mm、φ54mm、φ65mm、φ75mmの下ボタンは安全ピンが付いています。

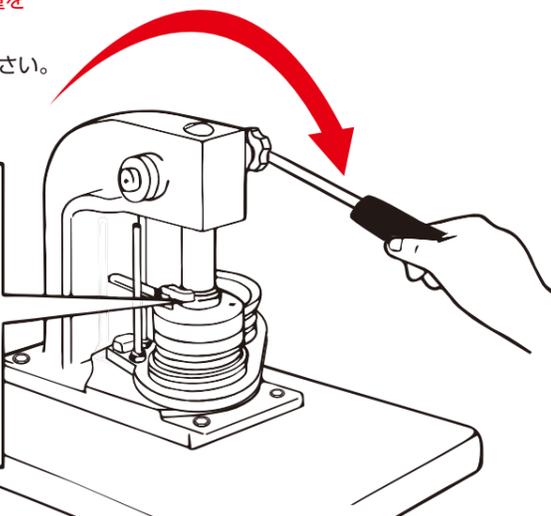
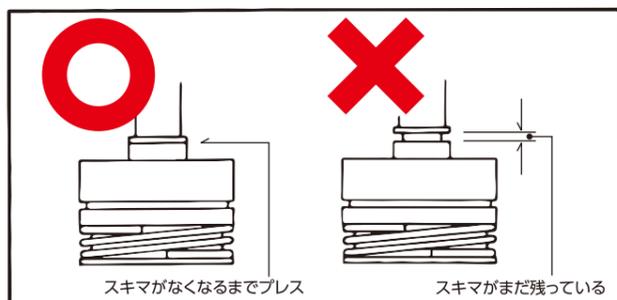
※上図の形状ではないアタッチメントをご使用の場合、安全ピンはプレス後の取り付けになります。



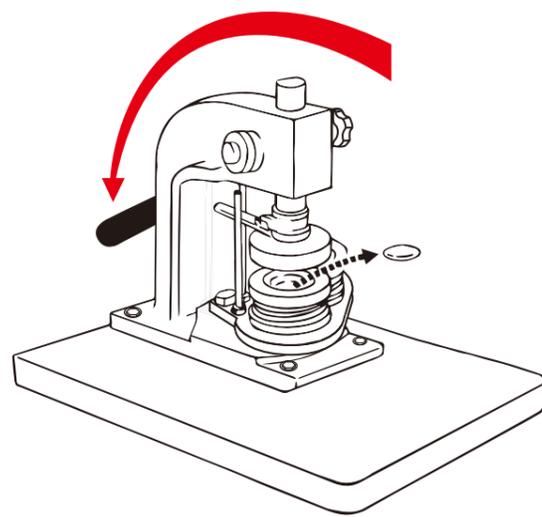
バッジマシン・操作手順

8 ハンドルを押し下げ、プレスします。

※この時、途中で止めずに最後までプレスしてください。(下図参照)
 ※お子さまの力でも簡単にバッジはできますので、**大人の方は体重をかけてプレスするなど、力をかけ過ぎないようにしてください。**
 ハンドルが曲がり、本体が損傷する場合がありますのでご注意ください。



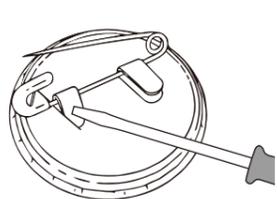
9 ハンドルを戻し、バッジを取り出します。



10 それぞれのグッズに仕上げて完成です。

■φ25mm安全ピンバッジの場合

バッジは裏返し、アタッチメントに付属のマイナスドライバーを使って添付の安全ピンを取り付けます。



安全ピンの取り付け向きを間違った場合使用できなくなりますのでご注意ください。

■キーホルダーの場合

バッジをホルダー本体に貼り付けます。



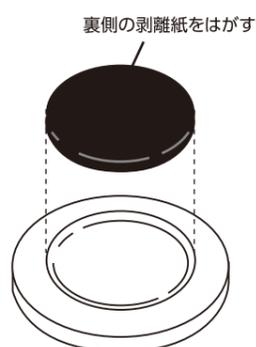
■連結バッジの場合

プラグを本体の穴に取り付けます。



■マグネットの場合

バッジを裏返し、マグネットをバッジに貼り付けます。



※図はφ54mmの下ボタンです。

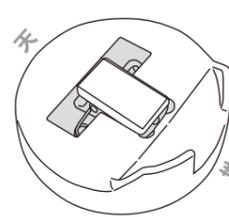
■クリップ・ピン付の場合

バッジを裏返し、表面のバッジのデザインが、まっすぐ天地になるように、クリップピンをバッジ本体に取り付けます。

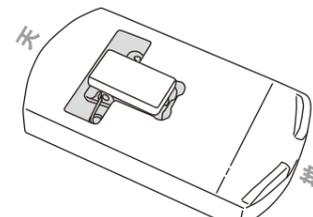


※図はφ65mmの下ボタンです。

φ54mm・φ75mmは専用治具があります。クリップピンの接着面を上にして治具の穴にセットし、剥離紙を剥がして上にバッジを乗せ貼り付けます。



※φ54mmの治具にクリップピンをセットした図

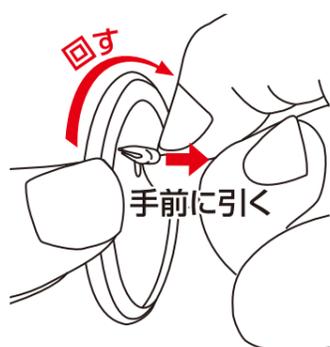


※φ75mmの治具にクリップピンをセットした図

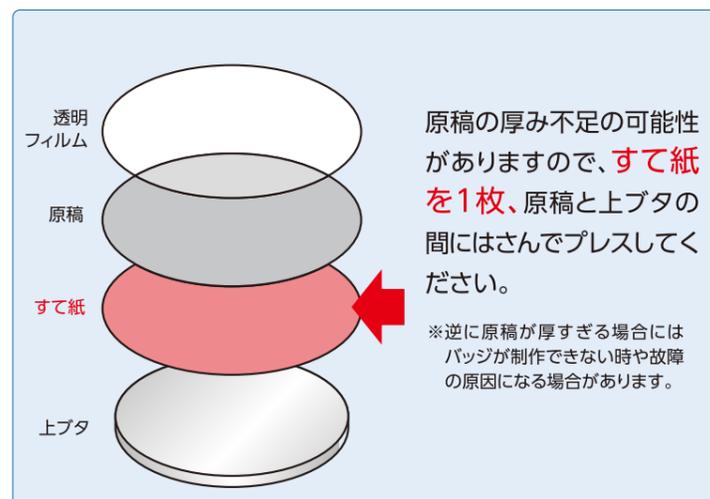
11 基本バッジ完成後、プレス不良が無いか確認してください。

片手で安全ピン、もう片方の手でバッジの上ボタの部分を持ち、上ボタンが回ったり、外れたりしないか確認してください。

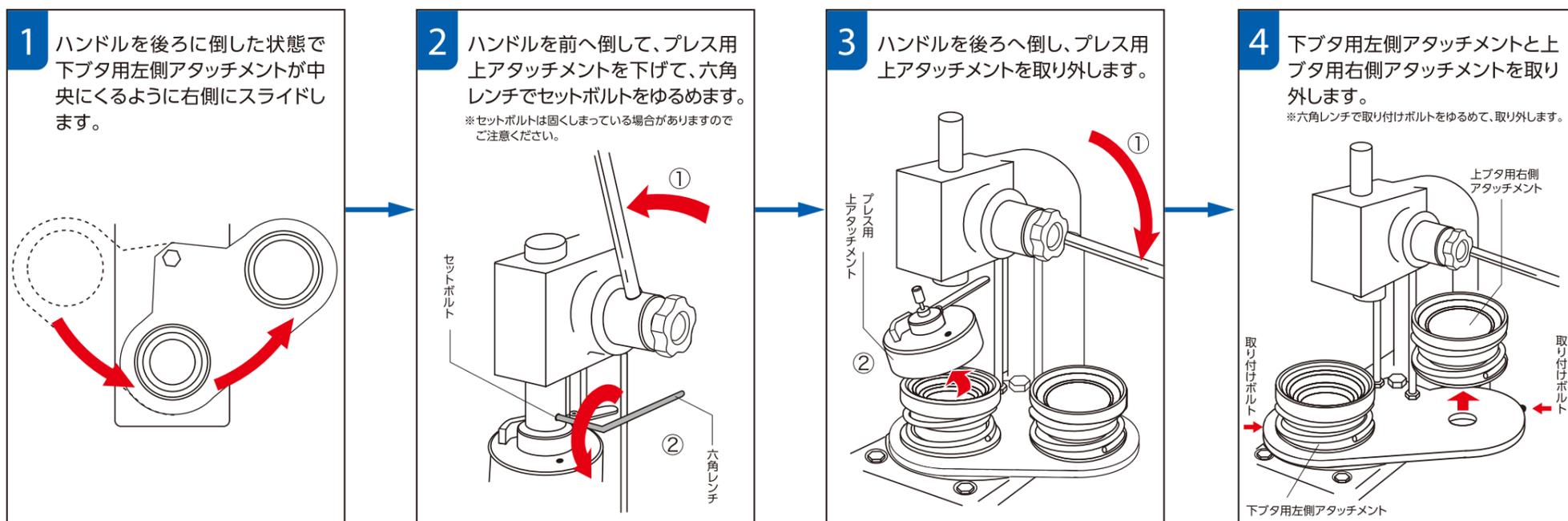
※金具が曲がる恐れがある為、安全ピンは強く引っ張りすぎないようにしてください。



バッジの上ボタンが回ったり外れたりする場合

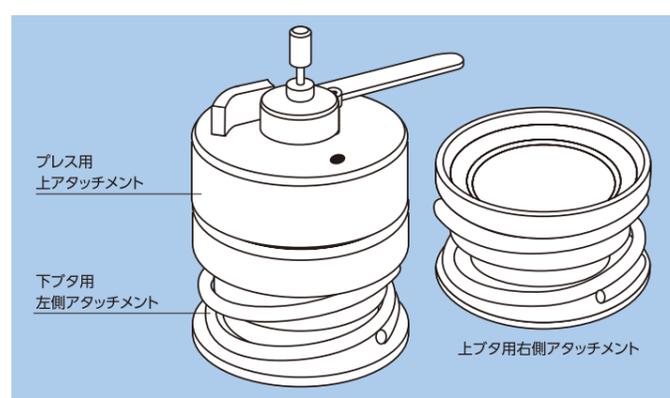


アタッチメントの取り外し方

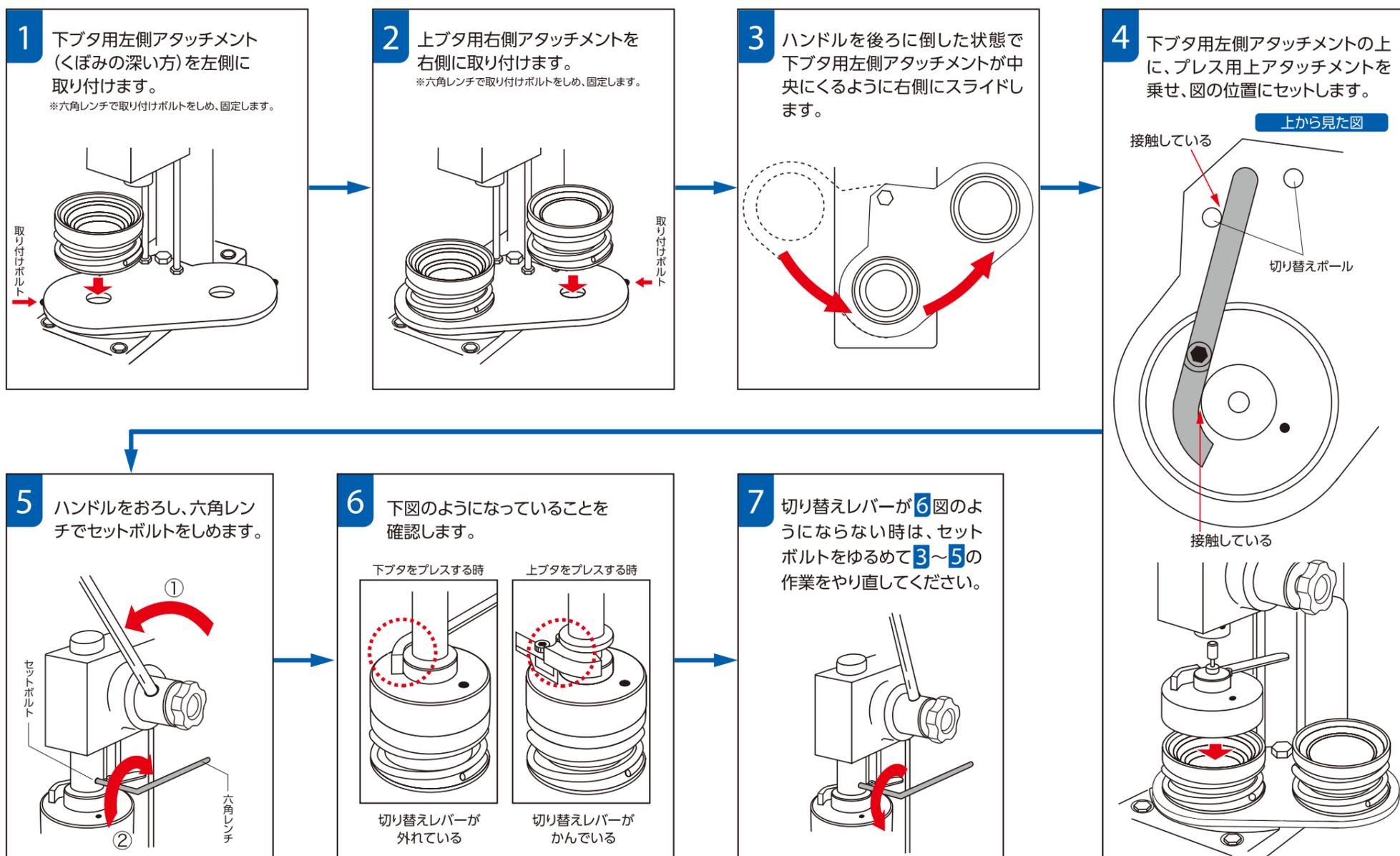


取り外したアタッチメントは丁寧に扱ってください。

右図のように、プレス用上アタッチメントと下ボタン用左側アタッチメントを重ねて、湿度の高い場所を避け保管してください。



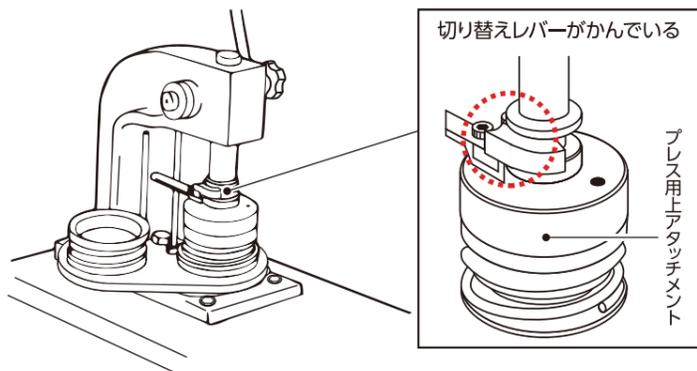
アタッチメントの取り付け方



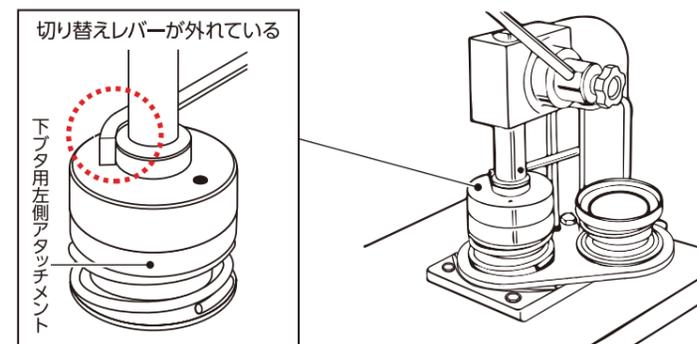
故障かな？と思ったら(うまくプレスできない)

アタッチメントが正しくセットされているかをチェック

①上ブタをプレスする状態でチェック。



②下ブタをプレスする状態でチェック。



上図のようになっていなければセットし直します。

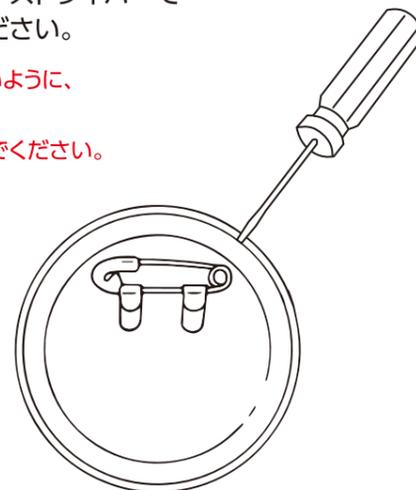
前ページの「アタッチメントの取り付け方」を参照し、3～7の手順でセットし直してください。

※上記の方法でも状況が改善しない場合は、点検・修理が必要な場合がございます。

バッジ製作に失敗した時は

①下ブタを、お手持ちのマイナスドライバーで図のように裏から開けてください。

※紙、写真などにキズをつけないように、慎重に行ってください。
※失敗したパーツは使用しないでください。



②次に失敗した紙、写真などのシワをよく伸ばしてください。そして最初からバッジ作りにかかってください。この時の作業工程はゆっくりと行ってください。



このシワをよく伸ばしてください。

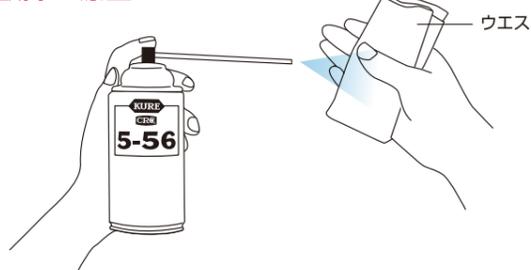
メンテナンス方法

【メンテナンス前のご準備】

アタッチメントを取り外し(P.7参照) ウェス(布)に浸透潤滑剤
(推奨品:呉工業株式会社製 KURE CRC5-56)を軽く含ませてください。

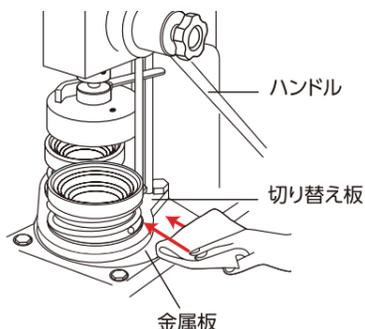


※浸透潤滑剤を機械に直接吹き付けしないで下さい。
故障の原因となります。



【バッジマシン】

ハンドルを後ろに倒した状態で、切り替え板を左右にスライドし、ウェス(布)で切り替え板の下の金属板を拭き取ってください。



【アタッチメント】

ウェス(布)で取り外したアタッチメントの内側を円を描くように拭き取ってください。



プレス用
上アタッチメント



下ブタ用
左側アタッチメント



上ブタ用
右側アタッチメント

よくあるご質問

Q.1 缶バッジのパーツは何個から販売していますか？

A. 缶バッジのパーツは100個単位で販売しております。

Q.2 バッジマシンが故障した場合はどうなりますか？

A. 故障したものを送りいただき、修理後に送り返す“センドバック”方式になります。

原稿制作・印刷時の注意点

■推奨用紙 (対応用紙については、お手持ちのプリンターの取扱い説明書をご確認ください。)

カラーレーザー用紙
コート紙 (135kg) (紙厚約0.13mm)
インクジェット用紙
写真用紙 薄手 (紙厚約0.2mm)

上記の紙を使用していただければきれいなバッジができます。

※推奨用紙はオプションで販売しております。

●普通紙は塩分が含まれていることがありますので推奨ではございません。

●カラープリンター出力の場合

薄口の場合には簡単に上ボタンと下ボタンが外れる場合があります。

この場合は必ず紙を1枚原稿と上ボタンの間にはさんでプレスしてください。

■バッジデザイン作成時の注意点

- ①バッジを作る場合、実際のバッジ寸法の他に巻きしろが必要となります(抜き寸法)。背景などはここまで塗り足しをつけてください。
- ②製造の過程で少しのスレが生じる場合がありますので、主要なデザインは仕上がり寸法(点線)より1mm程度内側(デザイン寸法)に配置してください。(印刷する場合はこの2つの点線はプリントしないでください。)
- ③外円の天地から内側へ2mm程、トンボ(実線)を入れてください。
※バッジを作るときに天地の基準となる線です。必ず入れてください。
- ④バッジの外円(実線)と外円との間隔を6mmとってください。

弊社ホームページにデータ作成用テンプレートをご用意しておりますので、目的に合ったサイズをお選びの上、ご使用ください。 →<https://www.daiki-peck.co.jp/template/>

